

HLG_Liveにも対応 HDC-4800を2式搭載 スローの充実が強みの 4K HDR大型中継車

株式会社クロステレビジョン様

Case Study 事例紹介

株式会社クロステレビジョン様は、4K HDRによる大規模スポーツ中継に威力を発揮する大型中継車「X-01」(エックス・ゼロワン)を新規に導入され、2019年6月より運用を開始されました。



全てを一新する新世代中継車を

当社ではゴルフ・野球・サッカーなど、主にスポーツを中心とした中継業務を行っています。今後、さらに大規模な中継や音楽収録に対応するべく今回増備した「X-01」(エックス・ゼロワン)は、いままでの流れをすべて一新する新世代中継車と位置付けています。

近年当社では、他メーカーさんに一貫して中継車をお願いしてきましたが、お客様からはソニーのシステムを望まれる場面が増えていました。特に4Kやスローのシステムともなると、多くがソニーのシステムを使っています。そこで、当社も舵を切り、外部のスイッチャーさんやカメラマンさんに安心して使ってもらえる車を作ろうということになりました。

4KでもHD同様の大規模制作に対応

当社の強みはスポーツですので、まずスローに力を入れました。HDで16倍速、4Kで8倍速が可能なマルチフォーマットポータブルカメラHDC-4800を2式、そのほか、マルチフォーマットポータブルカメラHDC-4300も10式、CCUとコントロールパネルは16式を常載しています。スイッチャーはマルチフォーマットプロダクションスイッチャーXVS-9000をHD時112入力8M/E、4K時56入力4M/Eの仕様で搭載しています。コントロールパネルは36ボタンタイプを4段分搭載し、1段単位で4M/Eすべてを自由に持ち出せる作りになっています。当面5M/E以上のコントロールは、パネルの表裏2面スワップ機能を使用しながら運用し、需要が増えた場合には拡張も考えています。マルチポートAVストレージユニットPWS-4500も搭載し、ファイルベース収録の要望にも備えています。



カメラはHDC-4800を2式とHDC-4300を10式、常設



悪天候の屋外でも利用しやすいよう、大型天幕を3基設置



歩道側0.5m、車道側1.0mの両側拡幅で広い制作スペースを実現



コントロールパネルが左右にスライド可能なスイッチャー操作卓



制作技術部 制作技術課
ビデオエンジニア
河原田 康児様



制作技術部 制作技術課
ビデオエンジニア 主任
佐古 達也様



制作技術部 制作技術課
オーディオエンジニア
石毛 敏行様



システムの映像フォーマットを一括で変換するフォーマットチェンジャーを装備



BVM-X300を備えた広いVEスペースの最後部には
機材用のユーティリティスペースも確保

システムでは、いままでできたことは当然でき、いままでできなかったこともいろいろできます。4K HDRなどもその1つですが、できることが多い分、習得するべきこともたくさんあります。ソニーのシステムは初めてで、自分たちにとってゼロからのスタート、新たな挑戦でもあります。ソニーのSI・技術のメンバーとのコミュニケーションもより深めていきたいです。

4KやHDRでの制作については、システムを習得しながら段階的に取り組んでいこうと思っています。できることも広がりましたので、いままで主力にしてきたスポーツにとどまらず、例えば音楽など、他のジャンルにも積極的に取り組んでいきたいと考えています。

最新の“HLG_Live”にも対応

4K中継車を構築するにあたり、12G-SDIかIPかで悩みました。我々が主力にするコンテンツがスポーツ中継であることもあり、お客様には遅延を気にされる方もいらっしゃると思います。パッチをはじめ従来の運用ができることも重視しました。そのため、今回は12Gを選びました。将来的に12GとIPのどちらが主流になるかはわかりません。IPのメリットにも惹かれていたので、本当に悩みました。

HDRについては、S-LogやHLGのほか、新しく登場したHLG_Liveにも対応しています。これら、HDRの制作ワークフローや搭載モードについては、我々もどれに対応したらよいか悩みましたので、ソニーの提案を参考にして決めました。システムの切り替えは、ワンタッチで中継車全体の一括切り替えが可能です。

スタッフに加え機材スペースも広く

当社の中継車として初めて拡幅を導入し、両拡幅としています。各席着座時でも、スイッチャー卓の背後で人の往来が可能になりました。同時に、スロー卓側を拡幅しない場合でも席を潰さずに運用が可能です。人だけでなく機材の空間も大きく取りました。車両最後部に、観音開き扉を備えた大きなユーティリティスペースを設け、仮設機器をキャリングケースに入れたまま設置できるようにしました。

新たな取り組みに ステップバイステップで

運用を開始して既に3カ月が経過し、ゴルフ・野球・サッカー・トライアスロンなどの現場で運用を行いました。ソニーの

主な導入機器

4K HDR中継車

マルチフォーマットプロダクションスイッチャー
XVS-9000

マルチフォーマットポータブルカメラ
HDC-4800、HDC-4300

ベースバンド・プロセッサユニット
BPU-4800

マルチポートAVストレージユニット
PWS-4500

HDRプロダクションコンバーターユニット
HDRC-4000

30型4K有機ELマスターモニター
BVM-X300